

## 令和8年度 重点目標

愛知県立愛知総合工科高等学校・附属中学校

「CONNECT」を合言葉に、附属中学校の開校に伴う中高一体型の教育体制を確立するとともに、2029年度に開校を目指す県立高専の併設準備を本格的に推進する。すべての分掌・学科・学年が主体的に連携・協働し、多様な専門性やアイデアを融合させることで、新しい学びの価値を創造し、地域と全国をリードする“未来志向の工科教育モデル”を構築するための校内改革に取り組む。

- ア 全ての授業、学校行事、部活動、校則等を「CONNECT」の理念に沿って再点検し、中高・教科横断の視点を取り入れた改善を進める。広報活動について、分掌・学科・部活動が連携し、附属中学生や地域小中学生向けの体験型イベントの魅力を高めるとともに、地域に開かれた学校づくりを全教職員で推進する。
- イ 融合型の附属中学校として、中高一貫のカリキュラム接続表・評価基準・生徒支援体制（生活・学習・進路）を確立・実践する。公設民営化された専攻科とは一層の連携を図るとともに、2029年度の県立高専併設に向けて、教育課程の接続、施設・設備の相互活用、共同教育の枠組みづくりを進める。
- ウ 全教科・全科目で主体的・対話的で深い学びを深化させ、PBL・協調学習・探究活動を系統化する。定期考査偏重からの脱却を継続し、観点別評価・パフォーマンス課題・ルーブリックを中高で統一的に運用する。学習eポートフォリオを導入・活用し、学習過程と資質・能力の伸長を可視化する。
- エ 「生成AIパイロット校」として、生成AIを学習支援・教材開発・教務事務効率化に活用し、生徒の主体的な探究力・創造力・問題解決力を育成する教育課程を開発する。特に、AIリテラシー教育の体系化、生成AIを活用した探究活動（構想・分析・評価・考察）の高度化、教科横断のAI活用実習テーマの開発に取り組む。
- オ 将来的な研究指定を見据え、地域大学・研究機関・企業との連携を強化し、科学技術・工学の実践的教育プログラムを整備する。探究活動の高度化、科学研究倫理の指導、研究発表会の体系的運営、データサイエンス・AI・ロボティクス等を含む先端分野の学びを拡充し、研究指定に必要な研究計画能力・探究成果の蓄積・外部連携基盤の強化に取り組む。
- カ 安全・安心の教育環境を確保するため、学校施設・設備の安全点検、5S活動、危機管理マニュアルの中高共通化、掲示物・サイン計画の標準化を進める。実験・実習・体育・部活動では、危険予知（KYT）・安全確認・ヒヤリハット報告を確実に実施し、附属中学校を含む全生徒への安全教育を系統化する。
- キ 特別な支援を必要とする生徒等について、小中学校や保護者・関係機関との連携を密にし、早期発見・早期支援を徹底する。特別支援教育コーディネーターを中心に、基本的人権の尊重に配慮しつつ、合理的配慮とユニバーサルデザインの実践を中高で共有し、個別の教育支援計画を接続・更新する。
- ク 全教職員が認め合い・注意し合い・助け合う職場文化を醸成するとともに、中高横断のプロフェッショナル・ラーニング・コミュニティ（PLC）を組成し、授業研究、相互参観、カリキュラム開発を継続的に行う。学年団・分掌・グループ間の情報共有を強化し、課題に対して協働で迅速に対応する。
- ケ 教育者としての適切な言動、個人情報・物品・金銭管理の徹底に加え、生成AI等を含むICT利用のガイドラインを整備・周知する。分掌業務・会議資料のデジタル化・標準化・ワークフロー化を推進し、部活動指導や事務処理の効率化を図ることで、時間外勤務の抑制と教育の質向上を両立させる。